

雪景色

今年は、日本各地で大雪に見舞われました。1月21、22日、ベイタウンもすっぽりと雪に包まれました。【板東】



11番街前の空き地にて。友達と一緒に作った「かまくら」。



熊(たぬき?)とうさぎ。



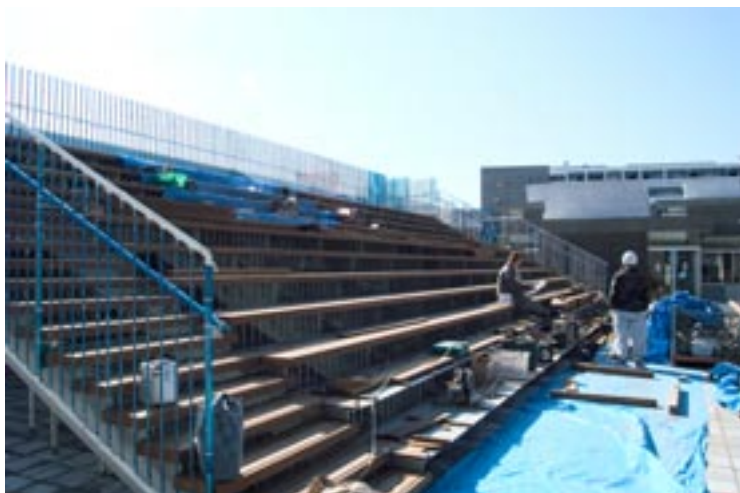
打瀬保育園協の空き地にて。ウェディングドレスを着た花嫁の像です。かなりの力作。ちなみに、そばに立っている女性は作者ではないそうです(壊れていたもので修理中とのこと)。

校名は「美浜打瀬小学校」が有力 新小学校ヴェールを脱ぐ

1月に入り、打瀬第三小学校(仮称)の工事中の借り囲いも取れ、いよいよ新しい校舎の外観が姿を現した。今月号では4月の開校を控え急ピッチで進む工事中の新小学校に「潜入」し写真取材した。関係者によると、気になる学校名は「美浜打瀬小学校」が有力視されているようだ。



写真下は中庭に作られた「スタジアム・ステージ」。新小学校の特徴的な施設になるだろう。



仕事をするって大変だ

打瀬中学校 1年生が職業体験学習

去る 1/24 (火)、打瀬中学校では恒例の「職業体験」学習が行われた。この学習は 1 年生全員が、パン屋さん、自転車店、コンビニ、スーパー、ケーキ店、バス会社など学校が用意した職場から希望するものを選び、訪問して体験学習を行うというもの。ペイタウンとその周辺でも多くの商店や企業がこのプログラムに協力してくれ、今年も多くのところで職業体験学習が行われた。ペイタウンニュースではこのうち、「ペイタウン矯正歯科」と「レイジーアフタヌーン」の 2 カ所で学習の様態を取材した。

【松村】

ペイタウン矯正歯科で

4 年前から打瀬中学校の職業体験学習生を受け入れているペイタウン矯正歯科 (GPW) には、香山君と長友さんの二人が訪問した。10 時前に到着した二人は、ひととおり説明を受けた後、自分の歯形づくりに取りかかった。吉田院長は、「説明や知識だけでなく、実際の手作業を通して「歯科医」という仕事を身体で体験してもらいたかった」と生徒本人に自分の歯形を作ってもらおうことを考え、

最初に体験生を受け入れた時から、毎年この作業を生徒に体験させている。

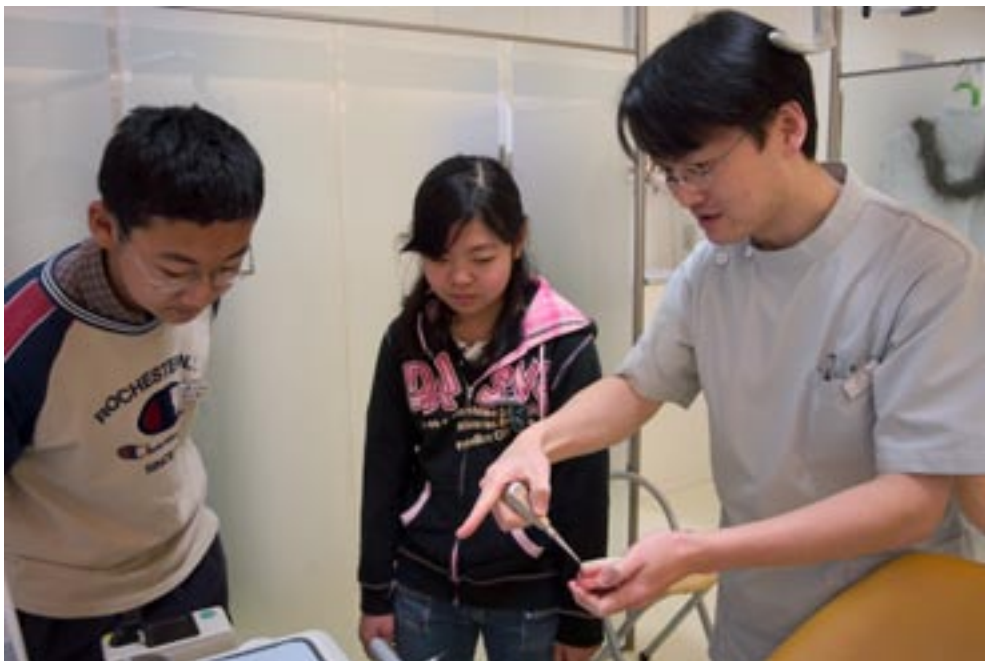
「特に歯医者さんになりたいという強い希望がある訳ではないんですが」、という長友さんは、「兄が矯正歯科の治療を受けていたので、興味があって参加しました」。香山君も「小学校 1 年生のときは医者になりたかったけれど、今はまだ理系か文系か迷っています」。歯科医の職業体験を希望するのだから、きっとバリバリの医学部希望と勝手に考

えていた記者の期待はみごとに裏切られたが、まだ中学 1 年生、今のうちにいろんな職業を現場体験しておくのは将来の進路決定にきっと役立つだろう。

石膏でつくる歯形が固まるのを待つ間、二人は吉田院長に用意してきた様々な質問をぶつける。「1 日の患者さんの数は?」「学校を卒業してから、どんなことをして開業医になりましたか?」などの質問に体験やご自身の考えを交え、すらすらと答えていた吉田院長だが、「人が職業につくのは何のためですか?」の質問には一瞬考え込んだ。

後で二人に質問内容をどうやって決めたのか聞くと、事前に学校で皆で話し合っただけのこと。どうやらこの授業は単に職業体験をするだけでなく、職業や仕事について考え、話し合うというコンセプトが含まれていたようだった。

吉田院長は、「自分が歯科医を志した頃のことを思い出し、とても新鮮な気持ちになります。医院は火曜日が定休日なのでちょうどよく、毎年受け入れています。これからも協力したいと思います」と話してくれた。



(写真左) 歯科医院には珍しい器具がいっぱい。虫歯もなく歯科医での治療経験のない二人には、吉田先生の使う歯を削ったり、抜いたりする器具は初めて見るものばかり。新鮮な驚きがあったようだ。
(写真上) 出来上がったばかりの香山君の自分の歯形。歯形は記念に持って帰ることができる。

レイジーアフタヌーンで

「中学生を受け入れるのは楽しみです」と昨年からの受入を希望していたパン屋さんのレイジーアフタヌーンには、伊野さんら男子 2 人女子 2 人の 5 人がやってきた。指導してくれたのはご自身も「パン職人修行中」の吉田さん。中学生たちは午後 2:00 頃にやってきた。早速翌日焼く予定のパンの仕込みを実習する。吉田さんは、なるべく多くのことを体験してもらおうと、沢山の生地を用意してくれていた。まずは基本の生地を丸める作業から。吉田さんが 2 度ほど実演して見せ、あとは子ども達に実際にやらせる。丸めるだけの作業だが、固さや形、色もなかなか吉田さんと同じにはできない。家庭で楽しんでつくるのとは違い、仕事となると手際よく仕上げた数多くつくるスピードも必要だ。それでも自分たちが仕込んだパンが明日には店頭で並べられると聞いては手を抜く訳にはいかない。

5 人のリーダー役の伊野さんは「作業して実体験ができること」を希望してパン屋さんを選んだ。学校側でも今年は「実体験」のできるプログラムを組んでくれる受け入れ先を多く揃えたようで、工場見学のように業務の説明が中心の受入先は加えなかったという。



(写真上) 吉田さんが丸める「あんパン」の生地は、色も形もさわったときの柔らかさもちがう。簡単なようだが、なかなかできない。

この方をご存知ですか？

シータワーやパークタワーの建築が行われていた頃、今のパーミヤン屋内駐車場付近にあった工事車両出入口で交通整理をしていた警備員の田中行雄さん（56歳）です。通りかかる歩行者や自転車の人にとっても丁寧に声をかけていたので覚えている人も多いでしょう。

田中さんは、主に大手建設会社の工事現場の安全管理を担当する、「ジャスティス」（正義）という警備会社の社員です。ペイタウンにまだマンションも少ない第二期開発の頃、リンコス建設当時からペイタウンの工事現場ばかり8年あまり続けて勤務してきました。

田中さんがペイタウンに来たのは、脱サラして警備員として働くようになってから2年ほど経ってから、それ以前はデパート会社に勤務していました。警備員の仕事として、小さなマンション現場を2ヶ所経験したあと、道路工事や千葉港駅前の開発工事現場を経てペイタウンに勤務することになりました。

現在は、JR 検見川駅近くのお住まいから、自転車で花見川沿いのサイクリング道路を20分くらいかけて走り、ペイタウンの現場まで通っています。ペイタウンで最初の現場はリンコス、その次はセントラルパークの各街区を5年半あまり、そして22番街を1年

半担当し、おそらくペイタウンでの最後の現場となる「ビーチテラス」に来年3月までの予定で働くことになっています。

最初の頃は、1～12番街までしか出来上がっていない時期だったので、その頃の野原が今ではすっかり変わってしまったと感慨深げに語っていました。

一番長かったセントラルパーク建設は、最初は鹿島建設が担当し、その後清水建設に引き継がれましたが、田中さんはその工事現場全てを経験したことになります。

工事現場はとこによって特色があります。資材や鉄筋などで雑然としていてもないところは、ゲートを閉めっぱなしにして中を見えないようにする現場もありますが、さすがにペイタウンの現場は清掃や整理が行き届いていて非常にきれいだそうです。

田中さんは警備の仕事をするとき、いつも「歩行者と自転車を最優先する」「現場の搬入予定を頭に入れておく」「予期しない工事車両の集中で交通渋滞が起きるのを避けて、一般車両の通行をスムーズにする」ということに気を配っているそうです。田中さんはひとつの現場の工事が終わっても、主に現場監督から乞われて次の現場で警備の仕事をつづけてきたそうですが、それには誠実な人柄と丁寧な仕事に理由があるようです。

取材していると、工事車両マニアの小学生が自転車でやって来て、クレーン車やミキサー車が現れるのを待ち構えていましたが、あいにくの雨で予定が変更。がっかりしている男の子に、「来週中はいつでも見られるよ!」とやさしく声をかけていました。

「長い間ペイタウンにつめてっていると情が移ってしまって、これが最後だと思うと少し淋しい」と語る姿が印象的でした。 【金】



ビーチテラスの現場前に立つ田中さん。取材当日はあいにくの雨だったが、田中さんのお仕事ぶりは変わらない。

2/14
(火)

「第1回エレナ・アシケナージ教授によるピアノレッスン無料見学会 in core」
会場：ペイタウン・コア

音楽ホール

時間：10:00～20:30

内容：ペイタウンの方々にもエレナ先生のレッスンを受けていただき、それを見学させて頂く会です。

無料で、小学生（45分）～一般（1時間半）のレッスンの様子を見学できます。

問合せ先：大垣（276-3878）

2/25
(土)

寺子屋工作ランド

内容未定

時間：10:00～

会場：ペイタウン・コア
工芸室

工作の内容はまだ決まっていますが、楽しい工作を考えています。

2/26
(日)

第37回

ファツィオリの会

時間：9:30～11:30

会場：ペイタウン・コア
音楽ホール

音楽愛好会が街のみなさんに名器ファツィオリを弾いて頂こうと、毎月第4日曜日に行っています。一般の方でもコアのフルコンサートグランドピアノを演奏できます。楽器演奏・声楽・合唱など、ご希望者はお申し込み下さい。非公開での演奏も受け付けています。見学は申し込みなしでも結構です。当日ホールにおいでください。

連絡先：阿曾 tel&fax 211-0273

メールアドレス kakuhito@mue.biglobe.ne.jp

出演申し込み締め切り：2月19日

コンサート・チケット完売御礼

2/12（日）、ペイタウン・コア音楽ホールで開催される「ウラディーミル・スヴェルドルフ／高木竜馬 ジョイント・リサイタル」（コア文化基金主催）のチケットは1/12の発売直後に完売となりました。ありがとうございました。

両氏によるリサイタルは2/19（日）にも千葉市「ば・る・るホール」でも開催されます。今回ペイタウンでのリサイタルをお聴きになれない方はご利用ください。リサイタルのプログラムなど詳細は、ペイタウン・コア アトリウムに掲示のポスターをご覧ください。

コア文化基金ではこれからも内外の質の高い演奏家の演奏をペイタウン・コア音楽ホールで実現させていきたいと思っています。ご期待ください。

2/18
(土)

わくわくおはなし会

時間：10:30～

会場：ペイタウン・コア
工芸室

絵本、紙芝居、ゲームと

今年も楽しいおはなし会を目指しています。

みなさんのご参加お待ちしております。

見かけた、話した、写真を撮った、ボールをもらった！ ベイタウン住民と監督、ロッテ選手たちとの交流模様～遭遇地点マップつき

ロッテ日本一の興奮さめやらぬ昨年10月29日、打瀬中学校付近を一緒に歩いていた息子が「あっ！」と叫んだ。前から歩いてくるのはバレンタイン監督。私が「Congratulations！」と声を掛けると、なんと微笑みながら手を差し出し「Yeah」と握手してくれた。写真を撮ると息子の肩に手を回してポーズまで…。バレンタイン監督をはじめロッテの外国人選手が多く住むベイタウン。こんな楽しい経験をした方も多いのではと思い、早速周辺の人々に「心温まる出会い」を紹介してもらった。【北村】



監督、電車で通勤する

熱烈なロッテファンで知られるSさんとTさん（東の街）は通勤時に海浜幕張駅でバレンタイン監督に気付き、勇気を出して声をかけた。監督は笑顔で挨拶を返すと「オープン戦のため横浜球場へ行きたいのですが…」と電車の乗り換え方法を質問。もちろん、丁寧に答えた。イヤホンでCDを聞いていた監督に曲名を聞くと「ニホンゴノベンキョウデス」とのこと。それから新木場で電車を降りるまでの20数分間、日本語と英語でのおしゃべりを楽しんだ。

ベニー選手、床屋で困る

18番街の鈴木さんは床屋さんでベニー選手に気付いた。『予約制』を知らない様子のベニー選手はあとから来たお客さん達にどんどん先を越され、不安げな面持ちでソファに座っていた。カット中の鈴木さんは鏡越しにベニー選手の様子を見て気の毒になり、途中で席を立てて英語で『予約制』の意味を説明。ベニー選手は「午後から遠征で九州に行くので、自分も予約をして一度自宅に戻り、荷造りをしてから予約時間に戻ってくることにする」との返事。思い切って声を掛けて良かった、と鈴木さん。

フランコ夫人、立ち話する

サウスコートの西川恭子さんは3番街の中華料理店「チンタンタン」前でフランコ選手の奥様と息子さんを見かけ、思い切って話しかけた。明るくきさくな奥様は「プレナのボールパークで応援ユニフォームを買ってきたの」と袋から取り出して見せてくれた。西川さんは大のロッテファン。いつもはおしゃれで上品な方だが、優勝争いのころからは応援ユニフォーム姿で盛り上がる西川さんにかお目にかかれなくなった。

ベニー選手、子供と自転車に乗る

パークタワーの藤本さんは、ベニー選手やそのご家族と話をしたことがある。ある週末、自転車に子供を乗せたベニー選手とすれ違った。仙台で試合の日なのにどうしてベイタウンにいるのかな？と思いつつ、『ベニーさん、今日試合は？』と聞いたところ、『今はマイナーリーグだ！』。しまったあ、ごめんなさいベニーさん、と心のなかで思ったそう。

その後の10/8日（土）西武とのプレーオフ第1ステージ第1戦の日、娘さんと自転車でマリンスタジアムに行こうとしたところ、お子様を連れてた外人のお母さんが自転車に乗っていた。『ベニー選手のご家族ですか？』と聞くと、『Yes!』ということだったので（お子様が50番の小さなユニフォームを着ていたので聞かなくても分かりましたが）、一緒にマリンスタジアムまで行くことに。

途中、ベニー選手の二軍落ちを知らずに『今日試合は？』と聞いたことを謝罪すると、『マイナーリーグに行ったことは彼にはよかったと思う』と話してくれたという。



■ ロッセ選手、遭遇地点マップ（地図制作 / 松村）

監督、リンクスで買い物する

3番街の佐藤則子さんからはリンクスでの目撃情報。夏休みに、来日中らしい娘さんと息子さんと楽しそうにおしゃべりしながらショッピングするバレンタイン監督を見かけた。さらに、日本シリーズ優勝の翌日はご夫婦で。レジで奥様がお金を払っている間、監督は品物を一生懸命ビニール袋詰め。前日の夜の胴上とビールかけの映像を見たばかりだったので、あの日本一の監督が！とびっくりしたが、まわりの人たちも騒ぎ立てず見守っている様子。佐藤さんは「お帰りなさい、おめでとうございます」とつぶやくばかりだったそう。

セラフィニ選手、ボールをプレゼントする

17番街の柴崎隆さんは公園で息子さんとキャッチボールをしていた時、自転車で通りかかったセラフィニ選手に声を掛けられた。シーズン中だったのでマリンスタジアムに向かう途中だった様子。息子さんは英語にドギマギ。セラフィニ選手は自分の荷物のなかからボールを取り出し、息子さんにプレゼント。ボールは家宝となった。感激の出来事だった。

Dear Mr. Valentine, and Lotte Marines,
People in Baytown are very pleased to have you all as our neighbors. We hope you will have a relaxing time here and hope 2006 will be another successful and fruitful year.
BaytownNews